

「サッポロ生ビール黒ラベル」新 CM のお知らせ

～「大人エレベーター」シリーズ新作を 2 作同時発表～
第 24 弾は 66 階に松本隆さん、第 25 弾は 35 階に山口一郎さんが登場！



サッポロビール（株）は、「サッポロ生ビール黒ラベル」の TVCM「大人エレベーター」シリーズ第 24 弾・第 25 弾を 2016 年 7 月 14 日（木）より、全国で放映します。

今回ご登場いただくのは、66 歳大人代表の松本隆さんと、35 歳大人代表の山口一郎さんです。妻夫木さんと、数々の名曲を生み出した日本を代表する作詞家である松本隆さん、人気ロックバンド「サカナクション」の山口一郎さんとの会話の中で描かれる世界観が、30 代を中心とした若い世代のお客様への新たな気づきを生むと共に、既存のお客様を中心とした「大人」の方々にも共感していただけることを期待しています。サッポロ生ビール黒ラベルは、今後とも様々なお客様接点において、「大人の 生」を訴求することで、ブランドのさらなる活性化を図っていききたいと考えています。

記

1. タイトル

【第 24 弾】

黒ラベル	大人 EV	66 歳	詩とは篇	30 秒
黒ラベル	大人 EV	66 歳	夢とは篇	30 秒
黒ラベル	大人 EV	66 歳	優しさとは篇	30 秒
黒ラベル	大人 EV	66 歳	自分のこと篇	30 秒
黒ラベル	大人 EV	66 歳	ライバルとは篇	30 秒
黒ラベル	大人 EV	66 歳	幸福とは篇	30 秒
黒ラベル	大人 EV	66 歳	詩とは篇	15 秒
黒ラベル	大人 EV	66 歳	夢とは篇	15 秒
黒ラベル	大人 EV	66 歳	恋と愛とは篇	15 秒

裏面もご覧ください

黒ラベル 大人 EV 66 歳 自分のこと篇 15 秒
黒ラベル 大人 EV 66 歳 過去の詩篇 15 秒
以上、計 11 タイプ

【第 25 弾】

黒ラベル 大人 EV 35 歳 今の時代篇 30 秒
黒ラベル 大人 EV 35 歳 詩とは篇 30 秒
黒ラベル 大人 EV 35 歳 幸福とは篇 30 秒
黒ラベル 大人 EV 35 歳 40・50 代篇 30 秒
黒ラベル 大人 EV 35 歳 迷いはない篇 30 秒
黒ラベル 大人 EV 35 歳 今の時代篇 15 秒
黒ラベル 大人 EV 35 歳 詩とは篇 15 秒
黒ラベル 大人 EV 35 歳 迷いはない篇 15 秒
黒ラベル 大人 EV 35 歳 40・50 代篇 15 秒
黒ラベル 大人 EV 35 歳 幸福とは篇 15 秒
以上、計 10 タイプ

サッポロビールのホームページで、2016 年 7 月 14 日（木）より、CM 本編を公開します。
<http://www.sapporobeer.jp/beer/index.html>

2. 放送開始 2016 年 7 月 14 日（木）以降

3. CM コンセプト 「大人の 生」をコミュニケーションテーマに掲げているサッポロ生ビール黒ラベルでは、独自の強みである「生のうまさ」に加えて「自分なりの価値観を持った大人同士が飲むビールである」という価値を訴求するため、架空の「大人エレベーター」に乗り込んだメインキャラクターの妻夫木聡さんがフロア数に応じた年齢の大人たちに出会い、サッポロ生ビール黒ラベルを味わいながら“大人”というテーマについて本音で語り合う CM を展開しています。

4. CM 内容 魅力ある大人たちに出会える「大人エレベーター」を舞台に、メインキャラクターの妻夫木聡さんに加え、66 歳大人代表の松本隆さんと 35 歳大人代表の山口一郎を迎えて、実に味わいのある世界が生まれました。生ビールを交わしてこそ生まれる「大人の世界観」を哲学的に描き、“大人の 生”に相応しい「サッポロ生ビール黒ラベル」の魅力を表現しています。

5. エピソード 【第 24 弾】

エレベーターの中で不思議な手紙を手にした妻夫木さん。「風の階で、あいませう（会いましょう）」と書かれた文字が浮遊しはじめ、エレベーターの階数表示は「66」を差します。エレベーターの扉が開くと、突然強い風が吹きつけ、手紙の文字は吹き飛んでしまいます。ふと正面を見上げると、月明かりに照らされた森の中で待ち受けていたのは 66 歳の大人代表、松本隆さんです。

幻想的な森の書斎で語り合う 2 人。妻夫木さんの質問に淡々と答えていく松本さんから、日本を代表する作詞家としての風格が感じられ、発する言葉の独特なチョイスがとても魅力的でした。

そして、松本さんの発する言葉にどんどん引き込まれていく妻夫木さんが「まるで歌詞を聞いているかのような錯覚をしてしまう」と笑みをこぼすと、撮影現場も和やかな雰囲気になりました。

【第 25 弾】

35 階が表示されたエレベーターに乗り込む妻夫木さん。扉が閉まるやいなやすぐに扉が開き、階数表示は 35 階のままのエレベーター。一瞬にしてワープしたかのように正面から青い光を感じ、ふと見上げると、海面すれすれに漂っているような不思議な映像が映し出された抽象空間でポツンと座る人影が見えます。そこで待ち受けていたのは、妻夫木さんと同じ年 35 歳の大人代表、山口一郎さんです。

ゆらゆらと海面を漂う波の映像が映し出された近未来空間で語り合う2人。妻夫木さんの質問に堂々と熱く語る山口さんからは、真摯に音楽と向き合う自信が感じられ、明快な言葉の数々がとても印象的でした。

そして、今回、初めての同い歳ゲストである山口さんとの会話に、妻夫木さんは時間を忘れて何度も話が脱線してしまうくらい楽しい話で盛り上がったと語ると、撮影現場も和やかな雰囲気になりました。

6. キャラクター 【メインキャラクター】妻夫木 聡 【魅力ある大人】松本 隆、山口 一郎

< 参考 > CM キャラクター プロフィール

【妻夫木 聡】

映画「ウォーターボーイズ」(2001年)、「ジョゼと虎と魚たち」(2003年)などに主演し、数々の賞を受賞。2009年にはNHK大河ドラマ「天地人」で主演。また2010年秋に公開された主演映画「悪人」での演技が高く評価され、日本アカデミー賞最優秀主演男優賞などを受賞。近年の出演作品は映画「ジャッジ」(永井聡監督)、「ぼくたちの家族」(石井裕也監督)、「バンクーバーの朝日」(石井裕也監督)、TVドラマ「若者たち2014」等。2015年には出演した台湾映画「黒衣の刺客(邦題)」が公開され、海外からも高い評価を受けた。2016年は「家族はつらいよ」(山田洋次監督)を皮切りに、「殿、利息でござる!」(中村義洋監督)、「怒り」(李相日監督)が全国公開され、NHK夏休みスペシャルドラマ「キッドナップツアー」(8月2日放送)にも主演。2017年には「愚行録」(石川慶監督)、「奥田民生になりたいボーイと出会う男すべて狂わせるガール」(大根仁監督)など主演作品が公開される。

【松本 隆】

1969年に細野晴臣、大滝詠一、鈴木茂とともにロックバンド「はっぴいえんど」を結成し、ドラムと作詞を担当する。「日本語のロック」を立ち上げ、その後の日本のポップ・ミュージックシーンに多大な影響を及ぼす。「はっぴいえんど」解散後は作詞に専念し、75年『木綿のハンカチーフ』(太田裕美)のヒットにより注目を集め、81年『ルビーの指環』で第23回日本レコード大賞を受賞。アグネス・チャン、KinKi Kids、近藤真彦、松田聖子、薬師丸ひろ子などに作詞を提供し、数多くのヒット作品を手掛ける。作詞活動45周年を迎えた2015年には作詞数が2100曲を超え、オリコンベストテン入りした曲は130曲を超えている。同15年には「風街レジェンド2015」と冠したライブを行った。作詞を手掛けたアーティストが多く出演し、自身も「はっぴいえんど」のドラマーとしてステージに立った。また本年3月、昭和から現在まで第一線で日本の音楽史を支えてきた功績により「第66回芸術選奨文部科学大臣賞」を授賞した。

【山口 一郎】

2005年に北海道で結成されたバンド「サカナクション」のボーカル&ギターであり、すべての楽曲の作詞作曲を手掛けている。作詞作曲、編曲、ライブの演出面、DJなど幅広い分野において音楽と関わっており、日本の音楽シーンについても言及し、バンドのボーカルでは留まらない影響力のある人物である。サカナクションとしては、2007年にメジャーデビューし、2013年にはNHK紅白歌合戦への出場を果たした。俳句や詩を愛読しており、文学性の高い歌詞のルーツになっている。出演するほとんどの大型野外フェスではヘッドライナーで登場するなど、現在の音楽シーンを代表するロックバンドの中心人物として活躍している。映画「バクマン。」音楽で第39回日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞。2016年7月には地元北海道にて、野外で行うオールナイト複合カルチャーイベント「SAKANATRIBE」を開催予定。

以上